

クルマエビの急性ウイルス血症予防のための小型水槽による効率的採卵方法

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 清水, 健, 照屋, 和久, 大角, 伸一, 有元, 操
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014501

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



クルマエビの急性ウイルス血症予防のための小型水槽による効率的採卵方法

清水 健・照屋和久・大角伸一・有元 操

クルマエビの PAV (Penaeid acute viremia) 防除対策を目的に、小型水槽での効率的な採卵方法について検討した。0.5 m³ 水槽での親エビ収容密度は、15 尾を収容した区が採卵数が多かったが、受精率、ふ化率は低かった。このため、産卵水槽での通気および換水条件について調べた。その結果、産卵水槽での通気および換水は、その後のふ化率に大きく影響し、通気を抑えて換水を行うことで、産卵効率の向上が図られると考えられた。この要因として、通気を施した区で見られる水槽内の粘液様物質が考えられ、通気のみではアンモニア濃度が換水区に比べて 10 倍程度高かった。また換水を施すことで、クルマエビの小型水槽での採卵では粘液様物質の形成の存否が採卵成績に影響を及ぼすことが示唆された。

栽培技研, 28(1), 1-5, 2000